

口腔外科手術時の患者管理

責任者名：米原 啓之

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

岡 俊一(歯科麻酔学 教授)

小柳 裕子(歯科麻酔学 准教授)

古川 明彦(口腔外科学Ⅱ 助教)

梶原 美絵(歯科麻酔学 助教)

◆一般目標 (GIO)

口腔外科手術に際して、周術期（手術前、手術中、手術後）における全身的、局所的な患者管理の重要性を理解し、基礎疾患を有する患者の具体的治療法および偶発症が生じた際の対処法を身につける。

◆到達目標 (SBO s)

口腔外科周術期における患者管理の重要性を歯科治療に関連づけることができる。

基礎疾患を有する患者の歯科治療における注意点を具体的に述べることができる。

◆評価方法

定期試験（50%）および平常試験（50%）で評価する。

平常試験後、解説によるフィードバックを行う。平常試験で理解度が基準に達していないと判断される場合は追加課題を課し、理解を深める。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
岡 俊一	月曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学教授室	desh20269@g.nihon-u.ac.jp	
小柳 裕子	月曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学講座研究室	desh20269@g.nihon-u.ac.jp koyanagi.yuuko@nihon-u.ac.jp	
米原 啓之	月曜日 17:00~18:00 口腔外科学第Ⅱ講座 教授室	03-3219-8093 yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	
古川 明彦	月曜日 17:00~18:00 口腔外科学第Ⅱ講座研究室	03-03219-8355 furukawa.akihiko@nihon-u.ac.jp	
梶原 美絵	月曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学講座研究室	desh20269@g.nihon-u.ac.jp kajiwara.mie@nihon-u.ac.jp	

--	--	--	--

◆授業の方法

授業は講義形式で行い、理解度を平常試験で確認し知識の定着をはかる。

【実務経験】

岡 俊一：大学病院での幅広い臨床経験に基づいて、具体的な裏付けのある内容を伝える講義を行いたいと考えております。

小柳裕子：日本大学歯学部附属歯科病院や総合病院での臨床経験を生かした講義を行いたいと考えております。

古川明彦：現在在職している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等をふまえながら、歯科臨床現場において本科目で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

米原啓之：臨床医の立場からわかりやすく感染症についての理論（総合病院において臨床診療を実践していた経験から、医学的知識は日々進歩しており常に発展途上にあるという視点に立ち、現在行われている医療の先進的な点や限界・課題）を説明します。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1	最新口腔外科学 第 5 版	榎本昭二 他	医歯薬出版株式会社	2017
教科書 2	口腔外科学 第 4 版	白砂謙光 古郷幹彦	医歯薬出版株式会社	2020
教科書 3	歯科麻酔学 第 8 版	福島和昭 他	医歯薬出版株式会社	2019
教科書 4	歯科麻酔・生体管理学 第 2 版	吉田和市 他	学建書院	2016

◆DP・CP

コンピテンス 3：リサーチマインド

コンピテンス：3-2、3-3、3-4

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンス：4-3、4-4、4-6

コンピテンス 5：医療の実践

コンピテンス：5-2、5-3、5-9

対応するディプロマ・ポリシー：DP1、DP3、DP4

◆準備学習(予習・復習)

本講義は生理学および薬理学総論の知識が身につけていることを前提に進める。あらかじめ生理学および薬理学総論について復習しておくこと。

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。理解できなかった点は講義後すぐに解決を図る。

◆準備学習時間

授業時間の2倍相当を学修時間に充て、講義の予習および復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

生理学（2年前期）

炎症と臨床検査（3年後期）

薬理学総論（3年後期）

薬理学各論（4年前期）

歯科麻酔学各論（4年前期）

口腔外科治療の実際（4年後期）

口腔診断学・有病者歯科学（4年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1	4	4.10	6	1. 滅菌と消毒 2. 術者の手指、 手術野の消毒 (教1) pp.323~325	・滅菌と消毒の概念を学び、手術器具・材料の滅菌の種類と方法について理解できる。 ・術者の手洗いの方法と消毒剤の使い方、術前の手術野の消毒法と口腔の消毒法について理解できる。	古川 明彦	C-4-1) 感染 E-1-5) 小手術
2	4	4.17	6	3. 感染予防対策 4. 手術患者の管理 (教1) pp.283~290	・スタンダードプレコーション（標準予防対策）の考えを理解し、エビデンスに基づいた感染対策を理解できる。 ・院内感染対策が必要な疾患について説明できる。 ・術後の合併症回避と手術成績向上のために、全身状態を把握し諸検査評価の重要性について理解できる。	古川 明彦	A-6-3) 医療従事者の健康と安全 E-1-5) 小手術
3	4	4.24	6	5. 循環系疾患 (教3) pp.325~344 (pp.37~50, 79~89 も参照) (教4) pp.21~32, 100~103	・高血圧の病態、治療、および周術期管理を説明できる。 ・虚血性心疾患の病態、治療、および周術期管理を説明できる。 ・先天性心疾患の病態、治療、および周術期管理を説明できる。 ・心臓弁膜疾患の病態、治療、および周術期管理を説明できる。 ・心筋症の病態、治療、および周術期管理を説明できる。 ・感染性心内膜炎の病態、治療、および周術期管理を説明できる。	梶原 美絵	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

4	4	5.1	6	5. 循環系疾患 (教3) pp.94~101 (pp.37~50, 79~89 も参照) (教4) pp.21~32, 100~103	・循環系モニタの種類, 目的, およ び原理を説明できる。	梶原 美絵	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識
5	4	5.8	6	5. 循環系疾患 (教3) pp.94~101 (pp.37~50, 79~89 も参照) (教4) pp.25~26, 100~103	・典型的な不整脈の心電図を説明で きる。 ・心電図から不整脈を診断できる。 ・典型的な不整脈の対応を説明でき る。	梶原 美絵	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識
6	4	5.15	6	5. 循環系疾患 (教3) pp.94~101 (pp.37~50, 79~89 も参照) (教4) pp.25~26, 100~103	・典型的な不整脈の心電図を説明で きる。 ・心電図から不整脈を診断できる。 ・典型的な不整脈の対応を説明でき る。	梶原 美絵	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識
7	4	5.22	6	5. 循環系疾患 (教3) pp.325~344, 94~101 (pp.37~50, 79~89 も参照) (教4) pp.21~32, 100~103	・第3回~第6回の講義に関して演 習形式で知識を深める。	梶原 美絵	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識
8	4	5.29	6	平常試験	・第1回~第7回までの講義に関し て試験を行う。時間の前半で試験を 実施して、試験実施後に試験内容に ついての解説によるフィードバック を行う。	古川 明彦 米原 啓之 岡 俊一 梶原 美絵	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識
9	4	6.5	6	6. 呼吸系疾患 (教3) pp.85~87, 90~94 (pp.24~37 も参照) (教4) pp.104~110	・胸部エックス線写真の読影および 呼吸機能検査の判読を説明できる。 ・呼吸系モニタの種類, 目的, およ び原理を説明できる。 ・カプノグラムから呼吸器および麻 酔回路の異常の診断ができる。	小柳 裕子	E-6 医師と連 携するために 必要な医学的 知識

10	4	6.12	6	<p>6. 呼吸系疾患 (教3) pp.314~325 (pp.24~37 も参照) (教4) pp.17~21</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気管支喘息および気管支痙攣の病態, 治療, 周術期管理を説明できる。 ・ 慢性閉塞性肺疾患の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 特発性肺線維症の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 肺血栓塞栓症の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 肺水腫の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 急性呼吸不全および急性呼吸促迫症候群の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 慢性呼吸不全の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 肺結核の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
11	4	6.19	6	<p>6. 呼吸系疾患 (教3) pp.85~87, 90~94, 314~325 (pp.24~37 も参照) (教4) pp17~21, 104~110</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回~第10回の講義に関して演習形式で知識を深める。 	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
12	4	6.26	6	<p>7. 代謝・内分泌疾患 (教3) pp.357~361, 54~57, 79~85 (教4) pp.47~50, 111~113</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 酸塩基平衡に寄与する因子とアシドーシスおよびアルカローシスの病態, 原因, 症状を説明できる。 	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
13	4	7.3	6	<p>7. 代謝・内分泌疾患 (教3) pp.57~59, 65~69, 361~366 (教4) pp.51~52, 114~115</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内分泌系の機能を説明できる。 ・ 甲状腺疾患の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 副腎疾患の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 副甲状腺疾患の病態, 治療, および周術期管理を説明できる。 ・ 下垂体疾患の病態, 治療, および 	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

					周術期管理を説明できる。		
14	4	7.10	6	7. 代謝・内分泌疾患 (教3) pp54~59, 65~69, 79~85, 357~366 (教4) pp.	・第12回~第13回の講義に関して演習形式で知識を深める。	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
15	4	7.24	6	平常試験	・第1回~第14回までの講義に関して試験を行う。時間の前半で試験を実施して、試験実施後に試験内容についての解説によるフィードバックを行う。	小柳 裕子 岡 俊一 米原 啓之 古川 明彦 梶原 美絵	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

